



和白干潟の自然観察会ーコメツキガニがたくさんいたよ！

ご案内

★ 和白干潟の生きものやハマボウを見る会 ★

夏の和白干潟にはカニや生きものがいっぱい！唐原川河口から黄色いハマボウの花が咲いている牧ノ鼻までの浜辺を歩きながら観察しましょう。牧ノ鼻海岸では岩場の生きものにも会えますよ！牧ノ鼻はハマボウの大群落地になっており、7月には黄色い美しい花がたくさん咲きます。毎年見守ってきました。和白干潟は「にほんの里100選」に選ばれ、環境省の「国指定鳥獣保護区」で「ラムサール条約」の登録候補地です。生きものの宝庫の和白干潟を、皆で守って行きましょう。

とき：7月20日（土）14:00～15:30 雨天中止、小雨決行

集合：香住ヶ丘公園（東区香住ヶ丘4丁目）

西鉄貝塚線「唐の原 駅」より徒歩7分 「香椎花園前駅」より徒歩7分

観察場所：唐原川河口～牧ノ鼻海岸

講師：藤井暁彦氏（九州環境管理協会）

定員：先着40名（事前申し込み制）

参加費：無料 持ち物：水筒、軍手、筆記具、タオル

服装：歩きやすい服装、長そで、長ズボン、帽子、長靴

主催：和白干潟保全のつどい（和白干潟を守る会ほか）

問い合わせ・申し込み：TEL 090-8412-2663（山之内）



ハマボウの花

5月11日(土)山・川・海の流域会議主催

(今林 眞由美)

自然観察会「唐原川を歩こう」報告



2年続けて雨天中止になり、3年目でやっと実現した観察会です。晴天で気持ちの良い観察会日和でした。1月の新春講演会で「唐原川の植物と生きもの」の講演をされた九州産業大学の古野正章助手と内田先生、同大学生の野生動植物研究会の城間さん、安武さんの説明を聞きながら、唐原川中流を遡りました。草花のカラー写真や特徴が書かれた「唐原川植物BOOK」を作って配られ、写真と実物を見比べながら、メモしたりして便利でした。日本原産種に交じって外来種もたくさん見られました。カルガモの親子やマツバウンラン、スミレなどの小さな花に心が和みました。800mを2時間かけてゆっくり丁寧に観察できました。川底には、人工ゴミが多く、これらの撲滅を呼びかける必要性も感じました。熱心に説明していただいた講師の方々、参加された皆さまに感謝いたします。参加19名(松田)

6月15日(土)日本湿地ネットワーク(JAWAN)2024年度総会参加報告

東京都中央区の多目的レンタルスペース「タクスペ会議室」で13名参加で、日本湿地ネットワーク総会が開催されました。守る会は東京周辺の会員に呼び掛けて4名で参加しました。コロナのために5年ぶりの開催で、2019年～2023年までの活動報告、決算報告、2024年度活動方針、予算が報告され、各会の活動報告もありました。私は干潟通信148号を配布して、昨年の干潟まつりは、食べ物の出店もあり570名の参加で大成功だったことや、昨年は「和白干潟のラムサール条約登録の要望書」を福岡市長と環境局長に出したことなどを報告しました。総会議案は全員の拍手で承認されました。終了後、守る会会員など5名で茶話会をしました。守る会の運営についてなどのアドバイスや励ましを頂きました。大変有意義な東京行きでした。(山本)



~~~~~ クリーン作戦 報告 ~~~~~

4月27日(土)「全国春のビーチクリーンアップ2024」 「2024干潟・湿地を守る日」参加



干潟を守る日宣言

4/27は「全国春のビーチクリーンアップ2024」と「2024干潟・湿地を守る日」参加のクリーン作戦でした。始める前に参加者全員で輪になり「2024干潟・湿地を守る日宣言と和白宣言」を読み上げ、全国の干潟の保全への承認を得てから始めました。高校生や大学生、企業からの親子連れなど、参加者も多くたくさんのゴミを集めることができました。環境問題に関心を持つ人が増えているのだろうとうれしくなります。参加された皆さまありがとうございました。参加者52名、回収ゴミ83袋 (田辺)

6月22日(土)「ラブアース・クリーンアップ2024」参加

6/22は「ラブアースクリーンアップ2024」参加のクリーン作戦でした。雨の予報でしたが始めるころには雨はやみ、無事に終わりました。クリーンアップ指定のごみ袋に分別して集めて、一番多かったのはプラスチック類やビニール袋でした。九産大生3名と一般の方2名含めて参加者15名、回収ゴミ29袋でした。(田辺)



観察会報告（2024年4月～6月）

（松藤 真理奈）

4月17日(水) 香椎保育所 さくら組 年長児39名と先生8名参加



黄砂で霞のある空でしたが暖かな晴天でした。海の広場は、木の新芽やおオジシバリ、アメリカフウロの花、シラフジも咲きだしていました。海の広場の正面にはミヤコドリ、和白川河口にツクシガモ、棒杭の上にカワウがいます。子どもたちは重なるように並んで望遠鏡を覗き、ミヤコドリを「嘴が赤いね」、カワウを「黒い棒みたい」と、初めての観察で驚きがいっぱいだったようです。その横をアオスジアゲハが飛び、砂浜で水を飲んでいました。アシ原前を通り、干潟でタマシキゴカイやコメツキガニの巣穴を発見。スコップで夢中にカニを探し、素手で初めてアサリ掘りをし、みんな水浸し。楽しい水遊びになっていました。アシハラガニが1番人気。ケフサイソガニの雌やア

ナジャコやシオフキガイもいました。にぎやかな観察会となり、濡れた服を着替えて、干潟の紙芝居をして、山本代表が「干潟や自然を守る人になってください」とお願いして終わりました。（今林）

5月19日(日) センスオブネイチャー29名（子ども20名+大人9名）参加

真夏のような晴天。浜辺に出ると海風が吹き涼しさを感じさせます。センスオブネイチャーは、山や海など色々な自然を体験しようと集まった小学校低学年と幼児の子どもたち。自己紹介後、山本代表が活動の経緯を話しました。望遠鏡の使い方を教えると、自分たちで鳥を観察。干潟の生きもの観察では、最近見ることが少なかったアシハラガニを発見。砂州ではコメツキガニの砂団子、沖合ではタマシキゴカイの糞塊がたくさん見られました。素手で探ればアサリが手の感触で判ることを教え、アサリ掘りを体験してもらいました。アサリは少なかったけれど、思ったより採れました。砂州で観察会で出会った干潟の生きものや海藻などを紹介しました。「砂を掘ると水が出てくるのはなぜか」「干潟を掘ると黒い所があるのはなぜか」などの質問があり、熱心でとても良かったです。（山之内）



6月3日(月) 和白小学校4年生90名と先生4名、保護者1名参加



好天に恵まれ、絶好の観察会日和。子どもたちは小学校から約2キロの道のりを歩いてやって来ます。みんな元気よく大きな声で挨拶して海の広場に入ってきました。この日は特に潮がよく引いて、かなり沖まで行き広い干潟を体験することが出来ました。水際で30個ほどの小さなアサリを見つけ、沖合でタマシキゴカイの糞塊や卵塊をたくさん見つけました。和白川河口に行くと、望遠鏡でハクセンシオマネキを観察。最後に採った生きものを確認し、アサリやウミニナの海水浄化実験結果に子どもたちは大拍手でした。山本代表の紙芝居のお話後、質問タイム。「36年間和白干潟をどんな思いで守ってきたのか」「人工島でどう変わったか」など時間が足りないほど多くの質問をもらいました。熱心な子ばかりで感心し、頼もしく思いました。（松田）

ヒトモトススキ (カヤツリグサ科)

海岸やまれに川辺にも生える特に大型の多年草です。高さ1~2mになり、多くの葉とともに巨大な株になります。葉は棘があり、ススキよりひどく手を切ります。夏に多くの小穂が集まって4~10cmの大きな黄土色の花序となり、それが何段もつきます。和白干潟の海の広場の奥からアシ原奥の淡水の湿地に、ヒトモトススキの大きな群落地があります。日本のカヤツリグサ科では最も大型のものです。本州(中央部以西)、四国、九州で見られますが、生息地が開発されて減少しています。私は石垣島でもヒトモトススキの群生地を見ました。南国が似合う植物です。



ヒトモトススキ

タマシキゴカイ (タマシキゴカイ科)



タマシキゴカイの糞塊

体長：15~20cm。北海道南西部以南に広く分布し、太い棒状です。浅海の砂泥底にU字形の穴を掘って、その中に住んでいます。5月の和白干潟が引いた時に沖まで歩いて行くと、三角錐状にとがった物がいちめんに干潟から出ていて、月面に来たような不思議な風景に出会い感動します。これはタマシキゴカイの糞塊です。糞を出した時は三角錐状の上にグルグル巻きのスパゲッティが載っているような感じですが、潮が満ちると波に洗われて三角錐状になります。6月、7月になると巣穴から、クリーム色の10cmくらいの長丸い卵塊ができて、巣穴とつながっています。世にも不思議な光景との出会いは、干潟を歩く楽しみです。タマシキゴカイはクロムシとも呼ばれて、釣り餌に利用されています。

セイタカシギ (セイタカシギ科) 全長37cm 環境省絶滅危惧Ⅱ類

和白干潟ではまれな旅鳥で、春と秋に訪れることがあります。国内では少数が局地的に繁殖したり越冬するものもいます。腹が白く背中が黒く足が赤っぽくて、ミヤコドリの配色に似ています。頭は灰色がかっていたり白っぽかったりします。今年の4月30日に和白干潟の唐原川河口付近から海の広場にかけて18羽が立ち寄り行きました。今までは1~2羽位しか見たことがなかったので、嬉しくなって新聞社にも知らせましたら、カメラマンがすぐ来られ写真に写して新聞にも掲載されました。セイタカシギが干潟を並んで歩く姿は、とても可愛かったです。余りにも細長い脚がショウガの茎のようで、竹馬に乗って歩いているみたいでした。また来てほしいですね。



セイタカシギ

環境教育シリーズ リフレットを改訂増刷しました。

環境教育シリーズ は初版1997年6月ですが、今回は2015年7月に改訂版を発行しました。残数が少なくなり、日本のラムサール条約登録地も増えたため、この度改訂版を発行しました。会員の皆様にはお送りします。



訃報 今村恵美子さん、中畠伸子さん

和白干潟を守る会の発足当初から長年にわたって会を支えてくださった今村さん、中畠さんが続けて亡くなりました。今村さんは4月22日に、中畠さんは5月3日とお二人ともご病気でここ4～5年は養生されていましたが、急なことでした。今村さんは長い間事務局長として山本代表を助け、和白干潟を守る会の大黒柱としていつもニコニコととても頼りになる事務局長でした。中畠さんも書記担当として事務局長を助け、私たちに冷静なアドバイスを与えてくれる人でした。お二人の復帰を心待ちにしておりましたがかなわず、とても残念です。お二人のご冥福を心よりお祈りいたします。

ラムサール条約登録湿地を訪ねて④ (松田 元)

ラムサール条約に登録された干潟や湿地はどのような変化があったか聞いてみました。シリーズです。

〈佐賀県 肥前鹿島干潟〉

晴天の6月4日、佐賀県南部の肥前鹿島干潟を見学しました。最干潮の時間帯を確認して訪れましたが、見渡す限り干潟で遙か遠くにかすかに海面らしきものが見えるくらい広大な干潟の景色に圧倒されました。この時期は有明海の人気者の「ムツゴロウ」や「トビハゼ」が肉眼でも見えるほどピョンピョンと飛び跳ねて遊んでいます。鳥達はほとんどが「ダイサギ」や「アオサギ」しかいませんでしたが、「クロツラヘラサギ」も2羽確認できました。11月から4月頃までは、日本最大級の飛来を誇る「チュウシャクシギ」や絶滅危惧種の「クロツラヘラサギ」、「ズグロカモメ」、「ツクシガモ」など多くの貴重な渡り鳥が飛来するそうです。広い干潟で多くの鳥たちが乱舞する風景も観てみたいなと思いました。

その後少し時間があつたので、「道の駅鹿島」まで足を伸ばしました。2日前に有名な「ガタリンピック」が終わったばかりでした。目の前で繰り広げられる泥遊び体験は圧巻だろうと目に浮かびます。

最後に鹿島市役所の「ラムサール条約推進室」でお話を伺うことができました。ラムサール条約に登録されて9年、今は干潟の環境保全と小学生を中心に干潟体験や野鳥観察などを通じ、自然の大切さや素晴らしさを伝え、次世代のリーダーを養成する活動をされているそうです。



肥前鹿島干潟

気が付いたらあなたも電話してください！

海辺のゴミやアオサなどをとってほしい時・自分でゴミを拾った時
092-282-7146 (港湾空港局・維持課)

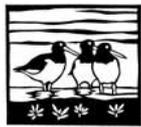
沖のアオサをとってほしい時
092-282-7154 (港湾空港局・みなと環境政策課)

傷ついた野鳥を見つけた時 092-513-5611 (福岡県筑紫保健福祉環境事務所・地域環境課)
092-643-3367 (福岡県環境部・自然環境課・野生生物係)

＊ ＊ お 願 い ＊ ＊

干潟でのゴルフやラジコンの練習はやめましょう！とても危険です。
干潟や堤防で火気を使うことはやめましょう！
(花火、バーベキュー、ゴミを燃やすこと)
火災の危険があります。
犬のフンの始末は飼い主がしましょう！





活動日誌

(山之内 芳晴)

2024年 3月

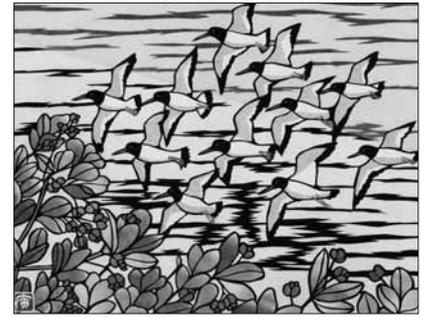
- 3/9 (土) 山・川・海の流域会議「総会」参加
- 3/10 (日) 和白海岸探鳥会 (日本野鳥の会 福岡支部)
- 3/14 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 3/22 (金) 和白干潟通信149号編集会議
- 3/23 (土) 定例会議 (和白干潟クリーン作戦と自然観察は雨天中止)

2024年 4月

- 4/7 (日) 2024年度春期シギ・チドリ調査1回目 (今津)
- 4/8 (月) 2024年度春期シギ・チドリ調査1回目 (博多湾東部)
- 4/9 (火) 和白干潟通信149号発送会
- 4/11 (木) イオンイエローレシートキャンペーン
「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 4/14 (日) 和白海岸探鳥会 (日本野鳥の会 福岡支部)
- 4/16 (火) イオンイエローレシートキャンペーン贈呈式
- 4/17 (水) 香椎保育所さくら組の和白干潟観察会
- 4/23 (火) 2024年度春期シギ・チドリ調査2回目 (博多湾東部)
- 4/27 (土) 定例会議 / クリーン作戦と自然観察

2024年 5月

- 5/1 ~ (水) くすだひろこきりえ展「和白干潟のなかまたち」開催
~ 31日 (金) まで
- 5/5 (日) 2024年度春期シギ・チドリ調査2回目 (今津)
- 5/9 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 5/11 (土) 自然観察会「唐原川を歩こう」(山・川・海の流域会議主催)
2024年度春期シギ・チドリ調査3回目 (今津)
イオンイエローレシートキャンペーン
- 5/19 (日) センスオブネイチャーの和白干潟観察会
- 5/22 (水) 2024年度春期シギ・チドリ調査3回目 (博多湾東部)
- 5/25 (土) 定例会議 / クリーン作戦と自然観察
- 5/28 (火) 和白干潟通信150号編集会議



きりえ「ミヤコドリ飛翔」

きりええはがき14集
「和白干潟のなかまたち」
を発行しました！

12枚セット 1,000円

お申込み:住所、氏名、電話
冊数を電話かメールで
電話:080-1725-4851
メール:qq33ptm9@
wing.ocn.ne.jp
くすだひろこまで

絵はがきで和白干潟を広めましょう！



きりええはがき・14集

干潟のつばやき「アシハラガニがいて良かった！」

モクズガニ科の甲幅50ミリほどのカニで、和白干潟ではアシ原周辺にたくさん生息しており、観察会では子どもたちにも人気のカニです。しかし、アシ原奥の汽水域の水量が少なくなり生息環境が悪化したのか、ここ数年はアシ原周辺でアシハラガニは少なく、自然観察会でも見ることは余りありませんでした。

今年の3月頃、アシ原付近に2つ並んだ4~5センチほどのカニの巣穴を発見。どうやらアシハラガニは居るようです。5月の観察会では3センチほどのアシハラガニを発見しました。アシハラガニが居て良かったですね。

例年、和白干潟ではアオサが発生する時期ですが、今年は、たくさんのポウアオノリが発生し、異常気象を思わせます。いつまでも沢山の生き物が生息する和白干潟であって欲しいですね。



アシハラガニの巣穴

活動報告

4/16 イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン 贈呈式に参加

イオンでは毎月11日に「イオンデー」として黄色いレシートが発行されます。そのレシートを自分が応援したいボランティア団体の「投函ボックス」に入れると、その団体にレシート金額の1%相当が寄贈されます。昨年7月より店頭活動も再開されました。4月16日にキャンペーンの贈呈式が開催され参加しました。2023年度分のギフトカード贈呈を受け、プリンタインクなどを購入しました。「和白干潟を守る会」の投函ボックスにレシートを入れていただいた多くの皆さまとイオン香椎浜店に感謝いたします。イオン店の黄色いレシートは全国各地で発行されたものでも構いません。和白干潟を守る会に送ってくださると有り難いです。(山本)



第20回 くすだひろこきりえ展「和白干潟のなかまたち」を開催



きりえ展は5/1～5/31に福岡市東区のレストラン「花もも」で開催しました。壁に新作12点を飾りました。下の棚では絵葉書や絵本などの販売や、和白干潟のリーフレット類も配布しました。和白干潟を守る会や野鳥の会、福岡きりえ同好会の方々、中学や高校の同級生、フラダンス、太極拳、うたごえサロン、山の友達など私が関わっている会の方々、新聞記事や美術館で配布した案内状を見て来られた方など多数見に来て頂きました。ありがとうございました。きりえ展開催で、和白干潟の自然の大切さが広まっていく事を心より願っています。(山本)

★和白干潟のこと★ 1 (今林 眞由美)

1965年頃の話です。私は小学生でした。春は3月になるのを待って、潮干狩りをしました。アサリのほかに、アカガイ、バカガイ、ハマグリ、ウミナナなど種類も豊富でした。貝掻き用の熊手で一掻きするだけでゴロゴロとアサリが出てきました。バケツいっぱい採って帰り近所にお裾分け、残りを砂抜きして味噌汁や佃煮にしました。マテガイの取り方は、鍬と塩を使う珍しい採り方で面白そうでした。5月の連休までの土日は毎日のように潮干狩りで、連休以降は海水が暖かくなり、貝毒が出ると言われていて採りませんでした。

夏になると奈多、雁ノ巣の護岸近くにはカブトガニが現れ、大きいものから小さいのまで沢山泳いでいました。不思議な形で、表は名前の通り鉄兜を潰して細長い柄を付けたようです。裏返すとミジンコを大きくしたようでした。大きなものは二匹連なっていることが多く、きっと産卵していたのでしょう。お盆には大小さまざまな精霊船が流れ着いて、カブトガニと一緒にになってにぎやかでした。秋冬は、波打ち際から海面までカモ類でいっぱいでした。上空でかぎ型や矢の形に連なって飛んで行き来する姿が美しく、寒さを感じながら、眺めるのが好きでした。「雁ノ巣」という、珍しい地名に納得する光景でもありました。小鳥の群れが右左に揺れながら飛び、方向転換のたびにキラキラ光るのを見るのも飽きませんでした。後にこの小鳥がシギやチドリだと教えていただきました。



きりえ「潮干狩り」

和白中学校の校舎の2階の窓から、校庭の松の木越しに遠くに博多の街、左手に牧の鼻の緑の丘がある和白干潟が見えていました。この景色も好きで、休み時間になると眺めていました。授業中、眺めてたこともあったかも。今は博多の街は見えませんがね。

守る会問い合わせ窓口

- ◎入会／観察会（申込等）
- ◎クリーン作戦
- ◎広報／調査／定例会議
- ◎干潟まつり

★ホームページ：<https://wajirohigata.sakura.ne.jp/>

- 山之内 芳晴 Tel. 090-8412-2663
- 田辺 スミ子 Tel. 090-1346-0460
- 山本 廣子 Tel. 092-606-0012
- 松尾 満子 Tel. 090-9651-8489



国際ビーチクリーンアップ参加 ゴミデータ調査

世界一斉の環境保護キャンペーン。海岸のごみを調べます。クリーン作戦時に実施。ぜひご参加ください！

日時：9月28日(土) 15時～17時
集合：和白干潟・海の広場(東区和白4丁目海岸)
主催：和白干潟を守る会
問い合わせ：090-1346-0460(田辺)



唐の原川お掃除し隊

日時：9/14(土) 10時～12時
主催：山・川・海の流域会議(守る会ほか)
問い合わせ：090-2397-1424(松田)

和白干潟のエコチャレンジ

“アオサのお掃除大作戦”

日時：9/29(日) 13時～15時
集合：和白干潟・海の広場
主催：和白干潟保全のつどい(守る会ほか)
問い合わせ：090-8412-2663(山之内)

定例スケジュール

定例会議(7/27、8/24、9/28)

毎月第4土曜日12時～14時 守る会事務所にて開催。
和白干潟を守る会事務所...福岡市東区和白1-14-37

以下は参加自由です。仲間が待ってます！

クリーン作戦と自然観察(7/27、8/24、9/28)

毎月第4土曜日15時～17時 和白干潟・海の広場集合
長靴があると便利 駐車場なし

和白海岸探鳥会(7/14、8/11、9/8)

毎月第2日曜日 9時～12時 JR和白駅前の 和白公園集合
参加費：野鳥の会会員100円、一般300円、中学生以下 無料
主催：日本野鳥の会福岡支部



会員募集中！

年会費 個人 2,000円
団体 5,000円

カンパの協力お願い

郵便振替 01720-4-23860
和白干潟を守る会

ボランティアへのお誘い

和白干潟の清掃、鳥の調査のお手伝い(車の運転や記録)、観察会のお手伝い(写真撮影)などです。参加をお待ちしています！

和白干潟の鳥たち(その106)



カワウ(ウ科 Common Cormorant) 河鵜 [全長 81cm]



写真撮影：秋山 芽生子

和白干潟では以前はカワウは冬に訪れていましたが、最近では1年中見られる留鳥になっています。博多湾周辺でも繁殖しているようです。ダイサギより少し小さいくらいで、全身黒っぽく、雌雄同色です。くちばしは先がかぎ型になっていて、魚を捕って食べます。干潟にズラーっと並んで休んだり、特に冬場は数千羽のカワウが並んで海に浮かび、一斉に魚を捕る様子は迫力があります。カワウは全国で増えているようで、フン害が問題になっています。和白干潟周辺では繁殖していないので、フン害はまだ聞きませんが、今後は分かりませんね。早春の1月頃から頭と足のつけ根が白くなり夏羽の婚姻色が見られます。(山本 廣子)

【編集】山之内 芳晴・田辺 スミ子・松田 元・今林 真由美・松藤 真理奈・山本 廣子
《カット》くすだ ひろこ

次号は2024年10月に発行予定

今号は150号を記念して表紙をカラーにしました。

【編集後記】 和白干潟は博多湾や人工島の開発によって環境が悪化し、鳥類の渡来数は1990年代の5分の1以下に激減してしまいました。それでも時々には珍しいセイタカシギのような鳥たちが18羽も訪れます。和白干潟の包容力の大きさに感動します。(山本)